

院内美化運動

6月1日(土)、職員による院内美化運動を行いました。当日はお天気にもめぐまれ、大勢の職員が参加し花壇の草取りや溝掃除、木々の剪定作業等を実施しました。



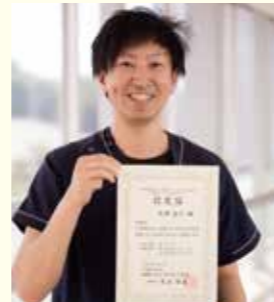
第30回 生命の駅伝

がん研究支援の啓発を目的とする生命の駅伝が5月11日から6月1日にかけて三重県全域で開催されました。今年は5月22日(水)に鈴鹿市役所をスタートし当院を経由していただきました。多くの職員と患者さんでランナーを出迎え募金箱の贈呈を行いました。



ハンドセラピスト資格を取得

この度、日本ハンドセラピ学会が認定する認定ハンドセラピストの資格を取得しました。三重県で唯一の有資格者となりました。当院は手の外科分野において専門的な治療を行っております。その治療の一部であるリハビリにおいても、手の外科に特化したリハビリを提供し、患者さんの機能回復や生活の改善に努めていきたいと思っております。



リハビリテーション課 広瀬 富二

回生 ニュース

社会医療法人 峰和会

K a i s e i N e w s



院長就任のごあいさつ

Greetings on the appointment of director as of June 1, 2024

人間ドック受診後の精密検査受診状況(2023年度)をお知らせします

健康管理センターでは健康診断で要精査(D2)や要治療(D1)、要再検査・生活改善(C)判定に該当した項目については、次回の健康診断(できれば一年以内)までに医療機関への受診をお勧めしております。特に要精査や要治療となった項目については、精密検査の結果やその後の治療経過について把握させて頂いております。把握の方法は、当院外来を含めた受診先医療機関から返送された精密検査依頼書や、受診者本人への手紙や電話での聞き取りなどで行っております。受診率が十分上がっていない項目も見受けられますので、ご自身の健康維持のため、病気の早期発見・早期治療をめざし、健康診断の「受けっぱなし」にならないようにしましょう。

2023年度 人間ドック(4241名) 要精密検査(D2)判定 医療機関受診把握 集計

2023年度	検査実施数(人)	要精検数(人)	要精検率(%)	精検受診数(人)	精検受診率(%)
上部消化管X線検査	1313	99	7.5	38	38.4
上部消化管内視鏡検査	2406	207	8.6	205	99.0
便潜血	4138	197	4.8	95	48.2
胸部X線	4229	190	4.5	103	54.2
マンモグラフィ	1054	22	2.1	21	95.5
乳房超音波	851	45	5.3	30	66.7
子宮頸部細胞診	1088	8	0.7	4	50.0
腹部超音波	4226	201	4.8	90	44.8
心電図	4239	154	3.6	76	49.4
眼底	4232	211	5.0	82	38.9

2024年4月30日現在

Message

この度、2024年6月1日付で社会医療法人峰和会 鈴鹿回生病院 院長に就任いたしました、荒木朋浩でございます。謹んでご挨拶を申し上げます。

就任にあたり、今後の当院の在りかたについて申し上げます。

当院は地域医療支援病院、災害医療支援病院、臨床研修医指定病院として鈴鹿・亀山地域の基幹病院の役割を果たしています。

2040年に向けての地域医療構想、医師の働き方改革、診療報酬改定と物価高騰など病院の運営は厳しい時代に入っています。しかし、病院長として地域住民と職員を守る責務があります。当院の理念は「生命への奉仕」です。すべての医療従事者は生命への奉仕者であるべきです。職員全員がこの理念を共有し、チームワークを持って医療の質を向上させ地域住民に安心・安全な医療を提供できるように更なる努力をしております。また、地域の医療機関との連携を更に深め当院の機能分担を明確化し地域から求められる医療機関を目指します。

そして、鈴鹿回生病院を受診してよかった、就職してよかったと言われるような、いつも笑顔が絶えない病院にしたいと考えます。

これらを実現するためには地域住民、関係者、そして全職員皆様のご協力とご指導が必要です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

Tomohiro Araki

社会医療法人 峰和会 理事長
鈴鹿回生病院 院長
荒木 朋浩

編集後記

皆さんから本誌へのご意見・ご感想・ご要望等ございましたら、広報委員会までお寄せください。

鈴鹿回生病院 広報委員会
〒513-0836 三重県鈴鹿市国府町112番地の1
TEL059-375-1212 mailinfo@kaiseihp.com

病院の理念

病院の方針

生命への奉仕

- ▶ 個人の尊厳を守ります
- ▶ 地域の基幹病院として医療機関と連携し健康の増進に貢献します
- ▶ 災害時に救援活動を行います
- ▶ チーム医療を推進し安全で高度な医療を提供します
- ▶ 将来を担う有能な医療従事者の育成に努めます
- ▶ 働きやすく健全な病院運営に努めます

初期臨床研修医

「臨床研修指定病院」として、今年も新たに7名を迎えました。希望に胸を膨らませた、明日を担う若い医師たちを紹介します。



Resident



沈 鑫
(しん しん)

Q.1 小学生の頃に見た医療系のテレビ番組の影響を受け、病気を的確に診断し、患者さんを助けることのできる医師に憧れを抱いたことがきっかけで、医師を目指すようになりました。


Q.2 病院実習でお世話になった際に、病院全体の雰囲気がとても良く、また、指導医の先生方や研修医の先輩方が熱心に指導して下さいました。私もこの環境で2年間の初期研修を学びたいと思い回生病院を選びました。

QUESTION 2

Q.1 医師を目指したきっかけ

Q.2 研修病院に回生病院を選んだ理由

Resident



大山 康介
(おおやま こうすけ)

Q.1 父が医師であり、幼い頃から医師という職業について話を聞く機会が多く、漠然と興味を持っていました。そして進路を決める際に、父のように人に感謝される医師になりたいと思い、目指すようになりました。

Q.2 大学の先輩から紹介して頂いたことがきっかけで病院見学に行った際に、スタッフの方々がとても温かく接して下さることに感銘を受けました。私も回生病院の一員になりたいと思い、当院を選びました。

Resident



佐藤 至
(さとう いたる)

Q.1 小学生の頃、野球で肘を痛めたことをきっかけに、医学的な側面からスポーツに関わりたと思うようになりました。その中でスポーツドクターという資格があることを知り、医師を目指しました。

Q.2 初期研修からスポーツ整形に関わりたと思っており、積極的に取り組んでいる回生病院に興味を持ちました。また、病院見学に行った際に、先生方やコメディカルの方々の雰囲気の良さを感じ、研修病院として選びました。

Resident




金光 英貴
(かねみつ えいき)

Q.1 幼い頃から医師である父の背中を見て育つたため、漠然とはありますが憧れを抱いていました。年齢を重ねるにつれて、人に直接感謝される職業は医師以外になかなか無いと思うようになり、医師を目指しました。

Q.2 先輩に紹介され見学に行った際に、先生方をはじめ職員の皆さんが、他大学出身の私にも親切に接して下さいました。病院全体の雰囲気が非常に良い回生病院で2年間働きたいと思い初期研修先を選びました。

Resident



中村 仁美
(なかむら ひとみ)

Q.1 家族が病気を患った際に、医師という職業に興味を持つようになりました。患者さんが普段通りの生活を送り、自分らしく生きる支えになりたいと思い、医師を目指すようになりました。

Q.2 学生の頃、病院実習をさせていただいた際に、研修医の先生方が自ら考え、主体的に行動し、手技にも積極的に取り組んでいる姿を拝見しました。私も先輩のように2年間で成長できると感じ、回生病院を選びました。

Resident



永原 愛莉
(ながはら あいり)

Q.1 持病があり通院生活が長かったため、医師という職業に興味を持つようになりました。優しく博学で人として尊敬できる主治医の先生への憧れと、その先生からの応援もあり、医師を目指すことにしました。

Q.2 1か月間病院実習をさせていただき、回生病院には病院全体で若手を育てていこうという雰囲気があることを知り、感銘を受けたからです。患者さん一人一人に寄り添い、温かい医療が提供できるよう精進します。

Resident



橋口 卓弥
(はしぐち たくや)

Q.1 常に患者さんファーストで、昼夜・休日関係なく働く父の姿に心を打たれ、私も医療に貢献したいと思うようになりました。憧れである父という存在に近づきたくて医師を目指しました。

Q.2 私は整形外科に興味があります。回生病院の整形外科では、後期研修に向けて様々な経験を積むことができること、先生方やコメディカルの方々の雰囲気がとても良いので、当院を選びました。

Close-up news

県内初

オーブアイ

外視鏡『ORBEEYE』を導入しました

Close-up 7

手術用顕微鏡

手術用顕微鏡は、細かな神経や血管などを処置する際に、手術しやすいよう患部を拡大して立体的に見るための手術機器です。従来より顕微鏡は、手術機器として重要な位置を占めておりましたが、特に脳神経外科の手術では、半世紀に渡り手術用顕微鏡を用いて、頭蓋内の脳実質および脳血管の手術や、脊髄神経ならびに椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症などの脊椎手術を、手術用顕微鏡を用いて精密に安全確実にしてきました。



Close-up 2

手術用顕微鏡システム『ORBEEYE』

今回当院で導入された手術用顕微鏡システム『ORBEEYE』は、4K 3D の高精細デジタル画像を実現したことで、組織や血管の微細な構造を高精細かつ立体的に観察でき、今までよりもさらに緻密な手術の助けとなる機器です。

『ORBEEYE』は55型の大型モニターを見ながら手術が行えるため、接眼レンズを長時間覗く必要がなく、術者の疲労軽減に貢献することができ、より安全な手術の実施が期待できます。また、大型モニターを採用したことで、チーム全員で同じ映像を共有できるため、複数の術者により執刀する手術スタイルの実現や、他手術スタッフとの情報共有による手術の効率化が期待でき、手術の安全性の向上や手術時間の短縮など、手術時における患者さんの負担を軽減できることが期待されています。



Close-up 3

最後に

鈴鹿回生病院では、脳神経外科のみならず、整形外科、外科、耳鼻咽喉科などの手術にこの『ORBEEYE』を活用し、より安全で確実な手術の実施を目指しております。



脳神経外科 脊髄・脊髄センター
水野 正喜

誤嚥予防 Part1



今年度のテーマは「誤嚥予防」です。誤嚥とは食べ物などが気管に入ってしまうことであり、肺炎に繋がることもあります。ムセを予防し、しっかり食事ができるようなお口のトレーニングを紹介していきます。



理学療法士
安藤 優伽



頬を膨らます 頬をすぼめる 舌を前に出す 舌を左右に出す

Point



- 頬、口、舌の筋肉をほぐします
- 出来るだけ大きく動かします
- 10回×3セットを目安にしましょう

発信@ 栄養管理室



管理栄養士
北林 明代



ごま味 バイクド・トーフドーナツ



日本人のカルシウム摂取量は不足傾向

骨の密度は 20 歳のピークを境に減少するため、20 歳までの食事や運動習慣等が重要となってきます。その後は減少を防ぐために毎日コツコツ摂取する必要があります。国民栄養調査より、日本人のカルシウム摂取量は不足傾向にあり、おおよそ牛乳コップ 1 杯分不足しています。カルシウムの吸収率が最も高いのは牛乳・乳製品の約 50%で小魚は約 30%、緑黄色野菜は 20%ほどで、加齢によっても吸収率は低下します。その吸収を助けるためにビタミン D を多く含む鮭等の魚の摂取も大切です。カルシウムが骨に沈着するのを助けるビタミン K は、納豆、緑黄色野菜、海藻類に多く含まれ、それらの摂取もお勧めします。何かに偏った食事ではなく、主食、たんぱく質源、野菜が揃ったバランスの良い食事を毎食摂ることが、カルシウム吸収にはよいと考えられます。高齢者の方は乳糖不耐症で牛乳を飲むとお腹がゴロゴロする場合があり、避けられていることが多く、カルシウム摂取不足となりやすい傾向があります。そこで、カルシウムを多く含む豆腐や胡麻を使ったおやつレシピを考案しました。

材料 (5個分)

- 絹ごし豆腐.....100g
- 鶏卵.....1個 (Mサイズ)
- 砂糖.....大さじ2
- 太白ごま油.....大さじ2
- 小ざし1 (揚げ物用なら他の油でも可)
- 塩.....ひとつまみ
- 米粉.....大さじ6
- すりごま.....大さじ3
- いりごま.....小さじ1
- ベーキングパウダー.....小さじ1

栄養成分 (1人分)

- エネルギー.....123Kcal
- たん白質.....4.1g
- 食塩相当量.....0.2g
- カルシウム.....120mg

【作り方】

準備：オーブンを180℃で予熱しておく/焼き型にいりごまを敷き詰めておく

- ①豆腐を泡立て器で滑らかになるまで混ぜ、そこへAを入れて混ぜ合わせる
- ②①へ米粉とすりごま、ベーキングパウダーを入れ混ぜ合わせる
- ③いりごまを入れた焼き型へ②の生地を分け入れ、180℃で予熱したオーブンで20分程度焼く
- ④焼き上がった生地に爪楊枝などを刺して、生地が付いてこなければ型から外し、粗熱が取れたら出来上がり

連携医療機関紹介

みずほ台クリニック



▲ 高橋 佳紀院長

令和6年2月開院

国道306号線沿いのみずほ台入口交差点を東へ800メートルほどのところにみずほ台クリニックはあります。20台は停められる広々とした駐車場で、院内はスタイリッシュなバリアフリー設計。また通常の診察室とは別に感染対策のための感染診察室も設けてあり、安心して受診できます。



院長の高橋佳紀先生は、平成17年(2005年)に三重大学医学部を卒業後、鈴鹿中央総合病院で2年間の初期研修を受け、その後も引き続き循環器内科の後期研修を経験されました。その後、総合内科を学ぶために県外に出て、名古屋記念病院や東海市民病院などで研鑽を積まれました。その後、三重県立総合医療センターにて呼吸器内科に従事されたのち、三重大学病院に戻られました。元々感染症に興味があった先生ですが、三重大学病院に戻ったときは、まだ感染症専門医の資格は取得しておらず、呼吸器内科の診療をしながら、感染症専門医の資格の準備を進めて、専門医試験に合格しました。その後、感染症専門医として、感染制御部で仕事をするようになりました。また、

三重県庁のクラスター対応班に所属し、三重県内の新型コロナウイルス感染症のクラスター対応にも従事されました。

喘息持ちだった幼少期

お父様が転勤族だった先生は、仙台で生まれ、青森、岡山、広島、佐賀、福岡、神奈川で幼少時を過ごされました。岡山で過ごしたあたりから記憶が残っているようですが、幼少時は喘息がひどく入退院を繰り返していたそうです。「よく入院をしていたのですが、病院の先生や看護師さんによくいただき、その頃から医療職に就きたいと思うようになったと記憶しています」と仰います。喘息が少しずつ治まった中学に進学した頃、医師の道へ進む決心をされたそうです。

患者に寄り添う開業の決断

大学病院で感染症専門医として従事されていた頃に開業を決意したそうなのですがその理由を伺うと、

「大学病院での感染症業務は、管理の仕事が大半を占めていました。医師や看護師から『この場合はどのような感染対策が良いのか』『この患者さんにはどのような治療が適しているか』といった相談を受けることが多く、とてもやりがいはあるのですが、どうしても患者さんではなく、医師や看護師との仕事を中心になってしまうのです。外来の仕事も減り、将来的には管理の仕事だけになってしまい、患者さんからますます離れていくと感じていました。しかし、私が本来目指していたのは、自身が喘息だった時に向き合ってくれた医師のように、患者さんに寄り添う医療でした。開業すれば、毎日患者さんと直接向き合うことができます。それが自分が求めている医療の形だと思い、開業を決意しました」。そして令和6年の2月5日にこの地に開業されました。大学病院に勤務しながら鈴鹿回生病院附属クリニックの非常勤医師として10年間ほど勤めていたこともあ

DATA

TEL 0595-96-9488

住所
三重県亀山市川合町1155-9

診療科目
●内科 ●呼吸器内科
●アレルギー科

診療時間
午前/9時00分～12時00分
午後/3時00分～6時00分

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	×	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	×	×

休日
土曜午後・木曜・日曜・祝日



<https://mizuhodai-clinic.com/>

り、開業当初から鈴鹿回生病院の患者さんが多く訪れたと言います。現在、先生を筆頭に看護師3名、医療事務3名の7人体制で診療を行っています。

患者さんへのメッセージ

～呼吸器専門医ですので、咳、特に長引く咳や喘息に関しては、ぜひご相談いただければと思います。「ちょっと咳が出るくらいだから・・・」と病院受診を控えてしまう方もいるかもしれませんが、実は喘息の予備軍だったり、肺気腫が隠れていることもあります。風邪を引いて咳がなかなか治らない時などは、早めに受診されることをお勧めします。勤務医時代は循環器内科、総合内科も経験しておりますので、幅広い疾患に対応させていただきます。当院で対応が難しい疾患や検査などがあれば、鈴鹿回生病院のような適切な医療機関にご紹介させていただきますので、安心して受診してください。今後も益々のご活躍を期待しております。